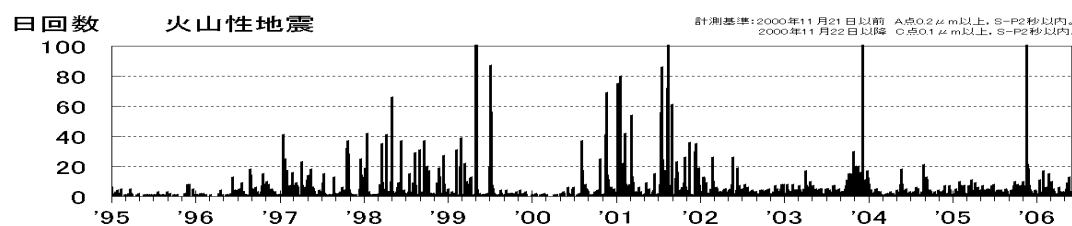
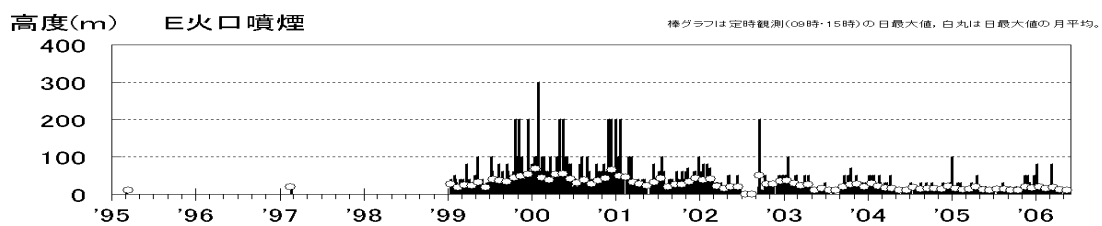
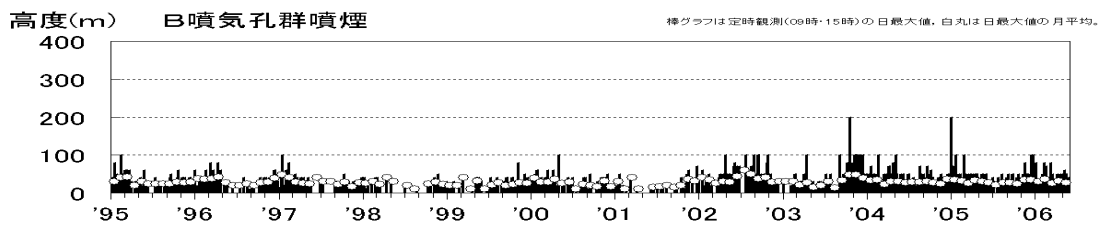
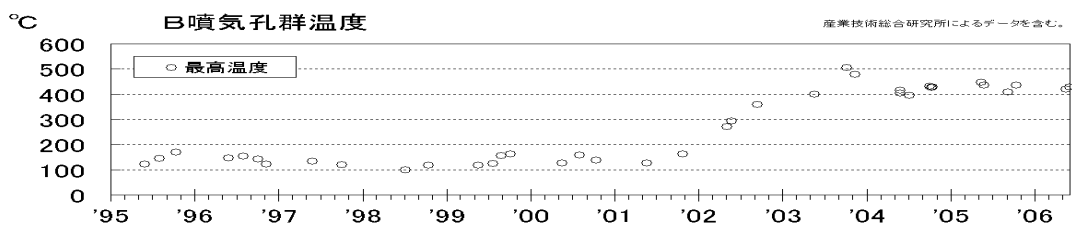
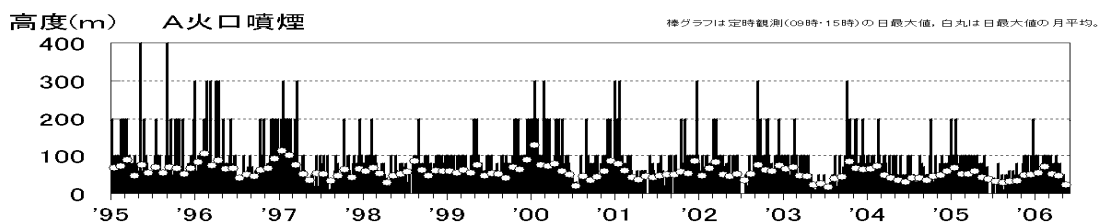
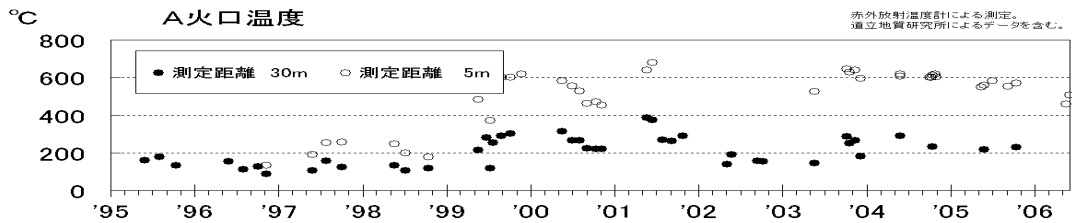


樽前山

1 概況

A火口やB噴気孔群は高温の状態が続いており、火山活動は引き続きやや活発な状態です。火口近傍では注意が必要です。



最近の火山活動経過図(1995年1月1日～2006年5月31日)

※A火口温度およびB噴気孔群の温度グラフには6月1日の測定値もプロットしています

樽前山の火山活動解説資料は気象庁の他に、北海道のデータも使用して作成しています。本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用しています。(承認番号 平 17 総使、第 503 号)

2 噴煙の状況

各火口の噴煙の状況は前期間と大きく変わらず、噴煙の高さは火口縁上おおむね 100m 以下で推移しました。

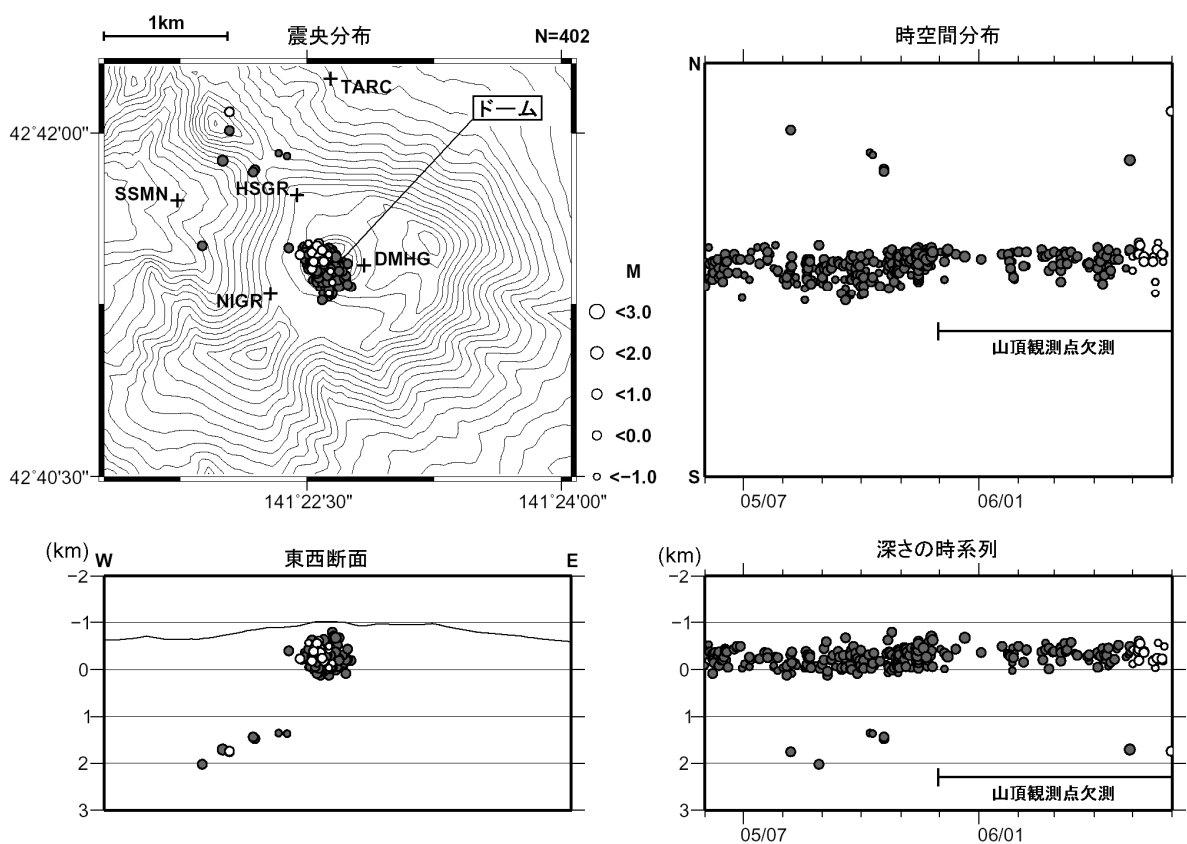
3 地震および微動の発生状況

火山性地震は 1 日あたり 0~13 回とおおむね平常レベルで経過しました。震源はこれまでと同様、山頂火口原浅部に集中していました。

火山性微動は観測されませんでした。

地震・微動の月回数 (C点)

2005~2006年	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
地震回数	75	33	46	50	96	349	38	60	77	45	32	75
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



樽前山の震源分布図 (丸印：震源、+印：地震観測点)

※2005年11月29日以降、山頂観測点障害のため樽前山の震源決定能力が低下しています。

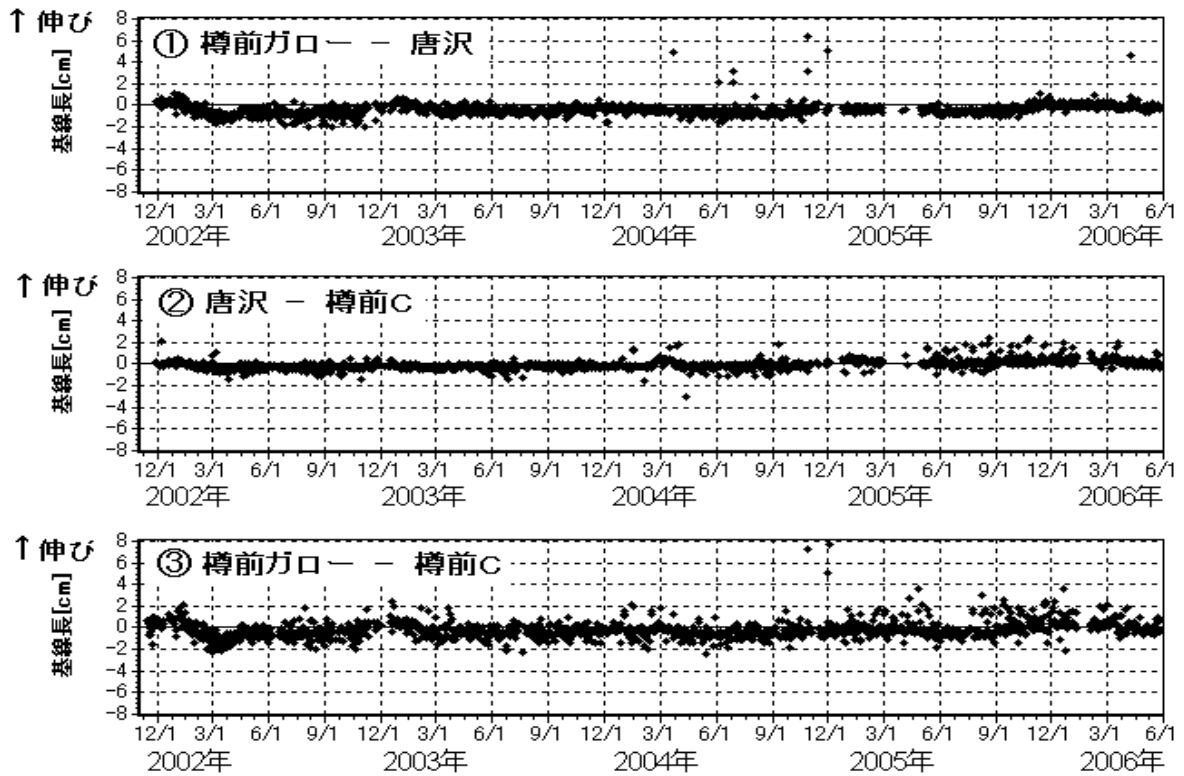
○印は今期間(2006年5月)に求まった震源を示しています。

●印は前期間までの11ヶ月間(2005年6月~2006年4月)に求まった震源を示しています。

震源は山頂ドーム直下の海面付近に集中し、ドームの北西及び西約 1.5km 付近のやや深いところ (海面下約 2km 前後) にも分布しています。今期間に求まった震源は、山頂ドーム直下の海面付近に集中しています。

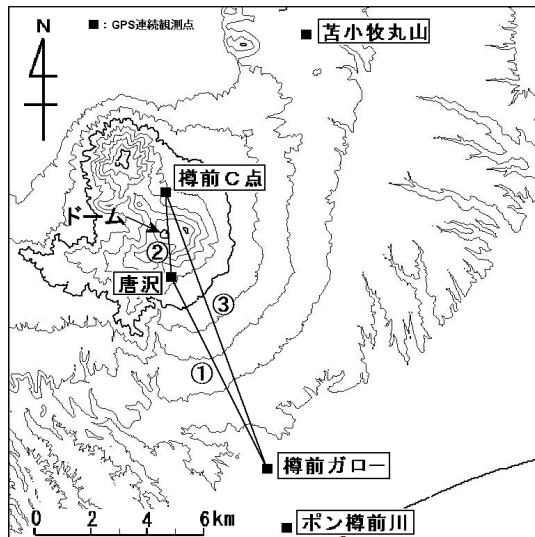
4 地殻変動の状況

GPS 連続観測では、火山活動に関連すると考えられる変動は観測されませんでした。

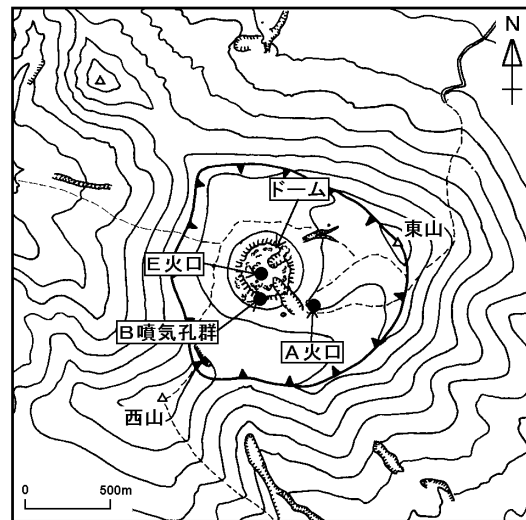


基線長変化 (2001 年 11 月 14 日～2006 年 5 月 31 日)

基線長変化グラフの空白部分は欠測



GPS 観測点配置図



樽前山山頂火口原図

4 調査観測結果

5月16日に北海道立地質研究所が行った現地調査によると、A火口の温度は約460℃（前回約570℃：昨年10月12日の札幌管区気象台の観測）、B噴気孔群は約420℃（前回約440℃：昨年10月13日の札幌管区気象台の観測）で、引き続き高温の状態が続いていました。なお、期間外の6月1日に気象台が行った観測でも、A火口の温度は約510℃、B噴気孔群は約430℃と引き続き高温の状態であることが確認されています。